

はじめに

自動車産業は、100年に一度の変革期と言われて久しくなりました。電動化、コネクテッド、シェアリング、そしてソフトウェア化。これらの潮流は、従来の“モノづくり中心”の産業構造を大きく揺さぶり、ビジネスの現場では日々、新しい概念や専門用語が飛び交っています。

しかし、雑誌やメディア、セミナーなどで目や耳にする用語の中には、「なんとなく知っているつもり」で実は正確には理解していない用語が少なくありません。業界経験者であっても、部署や職種が違えば馴染みの薄いワードは多く、ましてこれから自動車ビジネスに飛び込む若い人にとっては、最初のハードルになりがちです。

本書は、そうした“知っているようで知らなかった”用語を整理し、ビジネスの現場で役立つ形で理解してもらうことを目的に編纂しました。単なる言葉の説明にとどまらず、背景にある業界構造やビジネスモデル、実務での使われ方にも触れることで、読者の皆さまが自信を持って議論に参加し、日々の仕事に活かせるよう構成しています。

自動車業界は、広く、深く、そして面白い世界です。言葉を知ることは、その世界をより立体的に理解するための第一歩になります。本書が、皆さまの学びと実務の橋渡しとなり、これからのキャリアを支える一助となれば幸いです。

※本書の用語解説は、令和8年6月現在の情報に基づいてまとめています（株）公論出版調べ）。その後の情報の更新により内容が変わる可能性があります。学習にあたっては、ご自身で最新の情報にも触れながら理解を深めていただければ幸いです。

自動車業界の 会話がわかる *100* ワード①

— 若手からベテランまで〈語彙力〉で差がつく業界知識 —

モビリティ・コネクテッド

1 MaaS	4
2 CASE	5
3 OTA	6
4 SDV	7
5 IoT	8
6 コネクテッド・サービス	9
7 路面性状測定車	10
8 ゼロエミッション車	11
9 グリーンスローモビリティ	12
10 モータリゼーション	13
11 プローブ情報	14
12 テレマティクス	15

先進安全・自動運転

13 ADAS	16
14 ASV	17
15 ABS	18
16 ACC	19
17 AEBS	20
18 EDSS	21
19 AFS	22
20 DMS	23
21 TPMS	24
22 CAN	25
23 EDR	26

24 LiDAR	27
25 e-Call	28
26 OBD	29
27 ミリ波レーダー	30
28 特定 DTC	31
29 通信プロトコル	32
30 サポカー	33
31 ペダル踏み間違い時加速抑制装置	34

パワートレイン・環境

32 合成燃料 (e-fuel)	35
33 エコカー減税	36
34 パワートレイン	37
35 ECU	38
36 ロータリーエンジン	39
37 カーボンニュートラル	40
38 バイオ燃料	41
39 マスキー法	42
40 WLTC モード	43
41 JC08 モード	44
42 CNG	45
43 LNG	46

制度・流通

44 車両識別番号 (車台番号)	47
45 OSS	48

46	AA	49
47	ASR	50
48	輸入自動車特別取扱制度	51
49	自動車リサイクル法	52
50	自動車アセスメント	53

整備・修理・板金塗装

51	イオンデポジット	54
52	ウォータースポット	55
53	リビルト部品	56
54	標準（作業）時間	57
55	予防整備	58
56	バッ直	59
57	ハンダクラック	60
58	ハイフラ現象	61
59	デントリペア	62
60	フレーム修正	63
61	プラサフ	64
62	チリ合わせ	65
63	ゆず肌塗装	66
64	水性塗料	67
65	クリアー塗装	68
66	ハイテン材	69
67	ノッキング	70

走行挙動・安全現象

68	ウェットスキッド現象	71
69	ハイドロプレーニング現象	72
70	フェード現象	73
71	ペーパーロック現象	74
72	スタンディングウェーブ現象	75
73	ジャックナイフ現象	76
74	ヒヤリ・ハット	77

ビジネス・保険・経営

75	サブスクリプション	78
76	自動車保険参考純率	79
77	指数対応単価	80
78	サステナビリティ	81
79	CS	82
80	ES	83
81	CX	84
82	BP	85
83	コンプライアンス	86
84	DX	87
85	トリガー条項	88
86	ステーキホルダー	89
87	SDGs	90
88	M&A	91
89	リテンション	92
90	KPI	93
91	サプライチェーン	94
92	アップセル	95
93	クロスセル	96
94	ノンフリート	97
95	PPE	98

生産・品質・人材

96	ASSY	99
97	OEM	100
98	特定技能制度	101
99	育成就労制度	102
100	OJT	103

9 グリーンスローモビリティ

グリーンスローモビリティ（Green Slow Mobility）は、最高速度20km/h未満で公道を走行できる電動車を使った小さな移動サービスの総称で、その車両自体も含めた概念のことをいう。国土交通省では、地域の交通課題の解決と低炭素型モビリティの普及を同時に進める取り組みとして推進している。高齢化が進む地域での移動手段確保、観光地での回遊性向上、中心市街地の活性化など、幅広い用途で導入が進む。

車両は数人乗りの電動ゴルフカートから20人程度の小型電動バスまで多様で、生活道路や商店街など従来のバスが入りにくい狭い道路でも走行できる点が特徴。また、電動車であるため環境負荷が小さく、地域の脱炭素化にも寄与する。低速で運行することから安全性の向上が期待されるほか、運転操作が容易なため、地域住民やNPOなどが主体となって運行する事例もある。

利用シーンとしては、在来公共交通を補完するラストワンマイル移動、高齢者の外出支援、観光地での周遊、イベント会場内の移動などが挙げられる。自治体による導入事例も全国で増えており、地域交通の新しい選択肢として注目されている。

グリーンスローモビリティは、環境性・安全性・地域性を兼ね備えた次世代の低速モビリティとして、地域公共交通の新たな選択肢として期待が高まっている。



13 ADAS

ADAS（エーダス）「Advanced Driver-Assistance Systems（先進運転支援システム）」の総称で、事故防止・被害軽減・運転負荷低減を目的とした自動車の安全技術のことである。自動車業界では、自動運転へ向かう過渡期の中核技術として位置づけられ、軽自動車から商用車まで標準装備化が進んでいる。ADASは完全自動運転までの橋渡しであって、自動運転が「システムが主体となる運転」であるのに対して、ADASはあくまで「運転者を支援する技術」である（自動運転レベル1～2）。

ADASは車両に搭載された「カメラ」、「レーダー」、「LiDAR」、「超音波センサー」などで周囲を認知し、ECU（車載コンピュータ）が判断して、ブレーキとステアリングおよびアクセルを制御して運転者を支援する仕組みである。ADASの目的は、衝突回避および警報による「事故の未然防止」、緊急制動による「被害の軽減」、渋滞および高速巡航、駐車支援による「運転負荷の低減」の3点に集約される。

以下の表は、ADASの代表例の一部である。

区分	機能名	内容	主なセンサー
衝突防止	AEBS	前方の車・歩行者を検知し、 警報→自動でブレーキ	カメラ＋ ミリ波レーダー
車間維持	ACC	前走車に合わせて自動で加減速し、 車間維持	レーダー＋ カメラ
車線維持	LKA / LKAS	車線中央を維持するように、 ステアリング制御	カメラ
車線逸脱防止	LDW / LDP	白線を踏みそうになると警告、 または軽く戻す	カメラ
死角検知	BSM	斜め後方の死角に他車がいると警告	レーダー